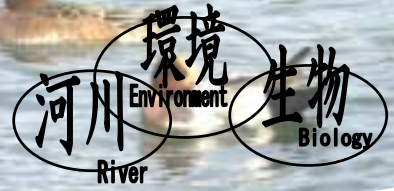


身近な自然の情報紙

かんきょう便り Vol.5



あけましておめでとうございます。

健全で恵み豊かな自然が将来にわたって維持されんことを！（代表取締役社長 坂元虎彦） Winter 2003

北薩キツネ探訪

川内市発

今回、川内市でキツネの生息が確認されました。一昨年川辺町で確認され、話題となったキツネ。今度は皆さんの前にも姿を見せるかもしれませんね -



キツネが確認された環境（川内市にて撮影）



キツネ（ネコ目イヌ科）

吻部（ふんぶ：目～鼻先）が細くとがり、尾が大きいのが特徴。本来、草原性の動物であるが、田畑と草原、樹林地帯、集落地などが複雑に入り組んだ環境に生息する。春先平均4頭の子を産み、夏まで一緒に生活する。ノネズミ類、鳥類、大型のコガネムシ類等主に小動物を捕食するが、果実類も食べる。（徳永 修治）

キツネの食べ物



キツネの分布（一部改変）
参考文献「日本の哺乳類」東海大学出版会



カラフトワシと仲間たち

- 川内市高江町の猛禽類 -



カラフトワシ 今年も10月に渡ってきました。11年連続お目見え。



トビ



ミサゴ



高江町の田園風景



ノスリ

鳥類の中で、主にワシやタカのことを「猛禽類」と呼びます。これらは広い餌場を必要とするので、自然環境が豊富じゃないと生息できません。高江町の田園地帯では他にもハヤブサやチュウビ等、猛禽類がたくさん観察できます。
(宅間 友則)

暮らしに生かそう植物のちから 生活名人

その式

江戸時代の整髪料？！

サネカズラ(マツブサ科)

晩秋から冬にかけて、鮮やかで美しい赤い実をつける常緑のつる性植物です。そのため古くは万葉集や百人一首などにも詠われました。

その昔、カズラの皮から採れる粘液を使ってびんつけ油(整髪料)を作ったりしました。それで“ちょんまげ”を結ったとかで別名を美男葛(ピナンカズラ) 又はピジンカズラと言います。なるほど枝を折ってみると、ベタベタしますね。

花期は8月でクリーム色の花を咲かせます。

(今吉 努)



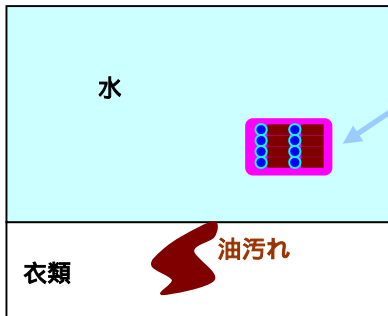
撮影場所：宮之城町

汚れはどうして落ちるの？

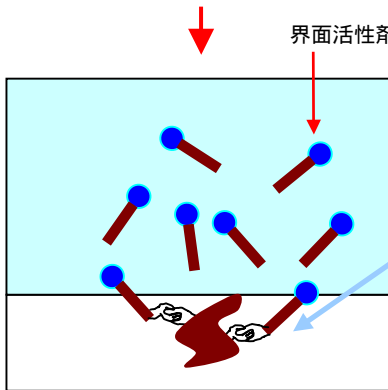
- 生活と川の深い関係 -

暮らしの心得伝承記録 式

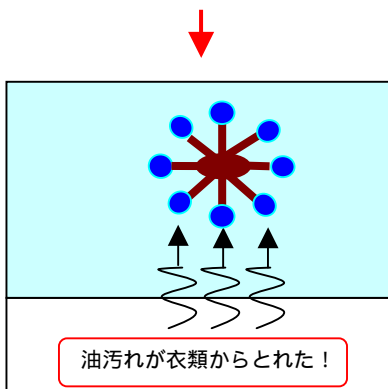
生活すると出てくる汚れ。今回はこの汚れを落とすのに不可欠な、^{かいめんかつせいざい}界面活性剤について話をします。
 <汚れが落ちる仕組み>



「せっけん」
「合成洗剤」



それぞれ手をつないだよ！

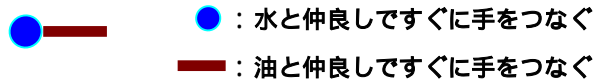


油汚れが衣類からとれた！

界面活性剤

親水性（水と仲良し）の部分と、疎水性（油と仲良し）の部分の合わせ持つ物質。色々な種類があり、せっけんや合成洗剤に含まれている。

拡大図



合成洗剤に含まれる界面活性剤

液性	弱アルカリ性	正味量	20g×3袋
成分	界面活性剤(33% アルファスルホ脂肪酸エステルナトリウム、純石けん分(脂肪酸ナトリウム)、直鎖アルキルベンゼン系、ポリオキシエチレンアルキルエーテル) 水軟化剤(アルミノけい酸塩)、アルカリ剤(炭酸塩) 酵素安定化剤、酵素、蛍光増白剤		

近年、合成洗剤が水質汚濁の原因になっているとされています。せっけんにも界面活性剤は含まれているのですが、なぜ合成洗剤の方が水質汚濁の原因になっているのでしょうか？

せっけんの界面活性剤は、環境中に出てもすぐに界面活性作用（上図参照）が無くなり、水中のミネラル成分（カルシウム等）とくっついて、せっけんカスになります。そして微生物に食べられ、二酸化炭素に分解されます。

一方、合成洗剤の界面活性剤は、洗浄力は凄いです。が、なかなか界面活性作用が消えません。これが河川の生き物に悪影響を及ぼすのです。具体的には魚のエラが溶ける、卵が^{ふか}孵化しない等。またこれらは下水処理でも除去できないとも言われています。

私は徐々にせっけんに替えていってます。一人一人の川への思いやりが清流を呼び戻し、皆がふれ合える川になるといいですね。（願） （中村 尚）



糖酢鯉魚

川魚食のすすめ 身近な川魚のおいしい話⑤

「鯉こく」「洗い」を食べ飽きた人に、本格中華の一品
 カリカリの食感と甘酢のとりあわせ
 川魚の王様の、また違った一面を知るだろう
 寒い冬の旬の味、コイ
 是非一度賞味されたし

鯉 こい
 (コイ科)

ほぼ全国の河川、湖沼に生息。全長は60cmを越える個体も見られる。雑食性で、小魚を食べることもある。産卵は5~6月、植物の多い小河川等で行われる。古くから親しまれ、食用はもちろん、観賞用としても有名。（宅間 友則）



湯之尾の滝



滝上流の自然と水面を泳ぐヒドリガモ

湯之尾の滝は、川内川河口より約七八km上流、伊佐郡菱刈町にあります。滝の大きさは、幅三〇m、高さ六mと、比較的小さい滝ですが、近くで見ると迫力は十分。水が水面を叩きつける音、そして舞う水しぶき、大きさ以上に滝の魅力を感じられます。

滝は、まさに自然が作り出した傑作。環境省によると、日本には落差五m以上の滝が、二四八八あると言われています。

しかし、自然は時として人間に多大な被害を与えることがあります。建設省（現国土交通省）により滝の左岸側に堰（湯之尾堰）が設置されるまで、上流の湯之尾温泉街は大雨の度に浸水被害に見舞われていました。洪水時湯之尾の滝によって、川内川が堰上げされるのが要因の一つでした。現在は、湯之尾堰に水を流すことによりこの要因は解消されています。

また、滝の上流には淵が広がっており、そこは生き物たちの楽園となっています。

すばらしい滝の景観や生き物たち、そして湯之尾堰、自然との共生を改めて考えさせてくれるそんな風景です。

（橋口 政信）

追記
前号まで御愛読頂いた「気ままに川内川」を、今回より「川内川気ままに川紀行」に変更しました。

内容は、これまで通り川内川のいろんな姿を紹介していくことと考えております。今後共宜しく願います。

真冬の彩り サザンカ（山茶花）

冬の華サザンカは、日本原産でツバキとともに冬の淋しい景色を彩る花です。サザンカの自生種は、沖縄から九州および四国の南西部にしか分布しておらず、花の色も白です。しかし自生種から生み出された園芸種の数々は、白のほかに赤や桃など濃淡さまざまな品種があります。サザンカとツバキの違いは、サザンカの花びらが1枚ずつ散るのに対し、ツバキの花は全部一緒に落ちてしまうところです。（角 成生）



冬の季節「二十四節気」

りっとう 立冬	11/7頃	冬の気配が感じられる頃
しょうせつ 小雪	11/22頃	小雪がちらつき始める頃
たいせつ 大雪	12/7頃	平地にも雪が降り始める頃
とうじ 冬至	12/22頃	一年中で最も夜の長い日
しょうかん 小寒	1/5頃	寒さが厳しくなってくる頃
たいかん 大寒	1/20頃	一年中で最も寒い頃

【お詫び】前回、秋の季節について、「立秋」と「処暑」が抜けていました。

身近な河川・環境・生物などについて年4回、季刊として発行していきたいと思っております。ご意見、ご感想、また環境や生物に関する質問等、お待ちしております。次回Vol.6は4月上旬発行予定です。（編集室一同）